



飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida



イマジン ローター

RI会長 ジェニファー E.ジョーンズ

第2570地区ガバナー 村田 貴紀

第3グループ
ガバナー補佐 白井 威

地域と世界でつながる力を磨き奉仕を実践しよう!

第3030例会 2022. 9. 14

—— 基本的教育と識字率向上月間 ——

天候 曇 (NO. 59-11)

会長 矢島高明 幹事 市川 昭

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 細田(伴)君、半田君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎ (042) 975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎ (042) 973-1661 FAX (042) 973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 矢島高明会長
- ・ソング 我等の生業
- ・四つのテスト唱和 大嶋職業奉仕委員
- ・ビジター 国際ロータリー 第2570地区 2022-23年度
第3グループガバナー補佐 白井 威様(日高)
- ・卓話 中里昌平会員

【会長報告】

白井補佐様ようこそ。クラブ資料の確認をお願い致します。先週の夜間例会は盛大に出来ました。親睦活動委員会の皆様に御礼申し上げます。本日より座席配置を横型にしてあります。しばらく様子を見てこれで良いのであればこのままでいくという事で理事会で承認されました。よろしくお願ひ致します。

【幹事報告】

第4回理事会を開催。前回議事録、11月のプログラム、斗光健一会員8/31退会、承認。新入会員候補野田直人様承認、資料配付。中里(昌)委員長より3年未満の会員対象の炉辺会談11/2・2/22開催、承認。10/5理事会。地区大会オンライン参加の資料配付。

◎例会変更のお知らせ

◇所沢RC

- ・10/4(火) ガバナー補佐訪問例会
- ・10/11(火) 定款により休会
- ・10/25(火) 市内5RC合同ガバナー公式訪問例会

◇新所沢RC

- ・10/11(火) 例会取消(細則5-2) 10/9「所沢まつり」参加
- ・10/18(火) ガバナー補佐訪問例会
- ・10/25(火) 市内5RC合同ガバナー公式訪問例会

◇入間RC

- ・9/29(木) 例会取止め(定款8-1-C)
- ・10/6(木) 教育委員長卓話「西山荘」18時点鐘
- ・10/13(木) 入間南RC合同例会 中止
- ・10/20(木) 例会取止め(定款8-1-C)
- ・10/27(木) 例会取止め(定款8-1-C)

◇入間南RC

- ・10/4(火) 例会場変更「不動院」
- ・10/11(火) 例会取止め(定款8-1-C)
- ・10/18(火) 10/10「親睦BBQ」に振替「彩の森公園」
- ・10/25(火) 10/22(土)「入間万燈まつり」参加に振替

◎白井ガバナー補佐ご挨拶

8/24はオンラインだったため改めて参りました。地区大会には飯能から数名お手伝いをお願いしています。補佐訪問も所沢5RCを残すのみ。グループの空気が分かるようになってきました。こういった経験を皆様にお伝え出来ればと思っております。

【委員会報告】

◎前年度幹事

大野(康)君

2021-22年度「年度報告書」皆様に支えられて何とか乗り切った一年の結晶です。ご覧下さい。

◎親睦活動委員会

中山君

10/19夜間例会は路線バス等にて現地集合です。

【出席報告】MU0・無届欠席1 細田(吉)出席向上委員

会員数		当日	
全数	対象	出席数	出席率
70名	5名	61名	87.14%

【結婚・誕生日祝】

塩川親睦活動委員

◇入会記念日おめでとう 鈴木(勝)君、町田君

◇結婚記念日おめでとう

大野(康)君、都築君、大野(康)君、藤原君、鈴木(勝)君

◇会員誕生日おめでとう

木川(-)君、大津君、中山君、神田君、土屋君

◇夫人誕生日おめでとう

大野(康)夫人、天ヶ瀬夫人、森夫人、和泉夫人

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

・誕生日お祝い有難うございます。

木川(-)君、山川君、土屋君、神田君、吉澤君

・入会記念日お祝い有難うございます。

吉澤君、町田君、鈴木(勝)君

・結婚記念日お祝い有難うございます。

大野(康)君、都築君

・妻の誕生日お祝い有難うございます。和泉君、森君

・中里(昌)様、今日は卓話有難うございます。楽しみに聴かせて頂きます。 大附君、矢島(嗣)君
・大学4年砲丸娘、日本インカレ3連覇です。大会ポスターのモデルになりました。 大野(康)君
本日計43,000円、累計額177,000円。
◎28日例会当番は細田(吉)、本間会員です。

【卓話】

渋沢栄一の足跡を訪ねて

飯能RC クラブ戦略計画委員長

中里昌平会員

昨年、優法会主催の「渋沢栄一の足跡を訪ねて」に参加して撮影、編集した1時間の映像を、短く編集し直しました。映像だけの例会があっても良いのかなと思ひ、ご覧頂ければと思います。[映像鑑賞]

(以下、添付資料より)

■富岡製糸場

技術革新により生糸の大量生産を実現した近代の絹産業に関する遺産。明治5年、明治政府によって建設。初代場長は渋沢栄一の従兄



製糸場記念碑

尾高惇忠。官営時代から、三井家の経営の時代を経て昭和14年、片倉製糸に合併、片倉富岡製糸所と改称。

「東置繭所(国宝)」木の骨組みに煉瓦を積む「木骨煉瓦造」。煉瓦は甘楽町に窯を築いて造り、目地材は直仁田の石灰を使用。煉瓦製造に携わったのが蒔塚直次郎。直次郎は尾高家の使用人の子として生まれ後に製糸場の事業にも携わる。

機械製糸が行われる前の「座繰り製糸」は通常7個か8個の繭から引き出した生糸を一本の糸にする。機械製糸場が富岡に建設されてからも、進化した「座繰り製糸」は農家の副業として盛んに行われた。

「繰糸所 越屋根」繰糸所内で繭を煮るため、蒸気抜きが出来る構造。繰糸所内部端の階段から越屋根部分まで登り、引き違い板戸を開閉する。

「繰糸所」繭から糸を取る作業「繰糸」が行われていた場所。平屋建。東西の置繭所(西置繭所も国宝)は2階建て。共に100m以上の大規模な木骨煉瓦造。細かい仕事には明るさが要求されたが、当時日本には電灯が無く、西向き大きな窓からは自然な光が取り入れられるようガラスが多用された。

繰糸機は昭和59年まで稼働していた日産製。以後国内では製造されておらず、この繰糸機は最新式。同型の繰糸機は今も現役で稼働している。

繰糸所内の小屋組みは西洋からの技術である



富岡繰糸機

「トラス構造」。三角形を組み合わせた骨組をもつこの構造は梁に直接力がかからないため柱と柱の間隔を大きくすることが出来、大空間をとる事が可能。建設に使われた窓ガラスや鉄製の窓枠、ガラスやパテはフランスから輸入したもの。

繰糸所では300人の工女が一度に作業する事が出来た。工女の勤務時間は現在と変わらず。「夏季休暇10日」は親元を離れての勤務で帰省のための配慮か。フランスやイタリアの製糸工場でも150釜程度が一般的とされていた時代に、当初、繰糸機300釜を設置し、世界最大級の規模を持っていた。

フランス人ポール・ブリュナは明治4年から5年間雇用されて製糸場設立に携わる。地下室にはワイン貯蔵庫があり、工女募集時に「生き血を吸われる」という噂が流れて集まらなかったのはワインが原因。困った工場長が自分の長女(13歳)を工女第一号と



して入れ、全国から士族の娘が集まった。

長野県、群馬県、埼玉県等の視察後、製糸場建設予定地の選定が行われ、明治3年、富岡に決定。周辺で養蚕業が盛んで繭の調達が可能、水・石炭等製糸に必要な資源の調達が可能、公有地が工場用地の一部に当てられる等、様々な要件が考慮された結果だった。

「ブリュナエンジン」機械用の原動力としては現存最古。現物は博物館明治村に展示。復元機は富岡商工会議所工業部会が将来に残せるシンボルとする目的で製作。高温蒸気をピストンの往復運動として機械的仕事に変換する熱機関。シリンダー1つ(単気筒)で水平方向(横型)。2つのカムの偏心回転運動を横方向に伝え、シリンダーに供給する蒸気弁を左右交互に開閉する。動力は地下を通過して繰糸場・上げ返し場へ伝達されていたと思われる。

2014年「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産に登録されてからは来場者も急増。群馬を代表する観光スポットの一つとなった。

■深谷 血洗島 渋沢栄一家「中の家(なかんち)」

深谷の「西島」「血洗島」等「島」がつく地名は利根川の氾濫によってできた地域。幕末から明治初期は藍栽培のほか養蚕も盛んで耕地の60%が桑畑。深谷ネギは明治初期に藍の値が暴落した事がきっかけ。水はけが良く栽培に最適な土壌だった事から始まる。

渋沢栄一は天保11年2月13日(1840年3月16日)にこの場所生まれ、23才までしか居なかった。

本来跡取りの栄一は24才で京都へ行きそのまま帰らず。12才下の妹ていが須永才三郎という婿をもらい、明治28年に建てた家が現存する。栄一



が住んだ家は茅葺で、2度程火災に遭い、最後は明治25年に全焼。3年後に再建。築126年。屋根の上に「やぐら」のようなものが乗る、養蚕農家の家の特徴の一つ。「蚕」は湿気が一番ダメ。換気をし温度調整して丈夫な蚕を育てるため、田島弥平という人が考案した「清涼育」という造り。「絹の遺産群」のうち「高山社」は「温暖育」、下から火鉢で温めるようになっている。

当時ヨーロッパではフランス、イタリアの蚕の微粒子病が流行って生糸が取れなくなっていた。中国では「太平天国の乱」で買い付け出来ず、日本に買い付けに来ていた。そういう意味ではタイミングが良かった。当時輸出の第1番は「生糸」、2番が「お茶」。茶箱の脇に貼ってあった浮世絵からジャポニズムが流行りゴッホが一番影響を受けたと言われる。3番目が蚕卵紙として蚕の「たねがみ」。大河ドラマでも蚕卵紙を焼いて暴落を防いだシーンがあった。

栄一は23才まで、蓼藍(タデアイ)という草の葉を切り刻んで発酵して作る「スクモ」を6寸(18cm位)の藍玉にして染め物屋に売っていた。年商1万両(5~10億円?)と言われる裕福な農家だった。

私共も論語の中の「忠恕」の精神を大事に「真心と思ひやり」で迎えるように努力していきたい。

栄一は大蔵省を退官後、第一国立銀行の創立からあらゆる業界500社以上の株式会社の設立、運営育成に関わり、その多くが現存。民間外交の中心的な担い手にもなり1926年度「ノーベル平和賞」候補者にも推薦された。

1931年11月11日、栄一は91歳で永眠。